

野ばら 6月号

大人になる

校長 夏見隆晴

中高生の担任をしていた当時、わたしはよく生徒たちに「もっと大人になれ」と、言っていたように憶えています。わたしの側では、この言葉を励ましのつもりで使っていたと思いますが、受け取る側では、どのように理解していたのでしょうか。今は、それを確かめる機会もないまま、この「大人になる」という一文をしたためております。

本校の場合、中学3年生にもなると、体も大きく精神的にも成長のみられる生徒が、結構いるように感じております。そして、そのような子どもたちは総じて、早期に学力の伸びもみられる傾向にあります。そんな経験則を持っているので、学習の効果が上がっていないと思われる生徒に向かって、「もっと大人になれ」と発破をかけていたのだと思います。担任をすることも無くなった今は、この言葉に懐かしさを感じています。

では、大人になると、子ども時代と何が変わってくるのでしょうか。勿論、このような問いには、ただ一つこれだというような答えはないのですが、まず子どもには「多くを学びたいという欲」というものが、少ないのではないかと感じています。一つ満たされれば、それで十分というところがあるのです。親がいて、庇護してくれて、他に何が必要かと問われれば、わたしにも返す言葉は無い、と納得せざるを得ないでしょう。

わたし自身も、中学時代に担任の先生が親子面談で、「のんびりしたお子さんですね」と母親に話しているのを、自分の耳で聞かなければならないという、不面目な失態を演じたことがあり、今思い出しても恥ずかしい限りです。でもあの時以来、自分自身で少しは勉強するようになったのではないかと、当時を懐かしく思い出しております。大人になれば、当然自分の力で食べていかなければならないという思いが当時のわたしには欠けていたのでしょうか。わたしにとって「大人」は、遠い世界のものでした。

幼かったわたしに、人間の生き方というもの考えるきっかけを与えてくれたのは、実家の近くに出来たカトリック教会の3人のスペイン人の神父さま方でした。祖国を遠く離れて、異国で人々のために働くという生き方もあるのだということに、強烈な思いで向かい合ったことでした。これは、言葉の壁を破り、心通じ合うための手段を獲得する必要があるとの思いが、わたしの中にもふつふつと湧き起こってきたのです。そして、まずは国語と英語の力をつけたいとの望みを叶えるために、自ら勉強をするようになったのです。

何を生きがいとして生きていくかということに思いを馳せ、考えるようになれば、子どもは一步大人に近づくように思います。同時にこれで、子どもは親離れという結果になります。わたしの場合、親の望みは医学への道を進んで欲しいという事でありました。でもわたしの心は、欧米の国々に憧れ留学したい、そのために勉強するという毎日が変わりました。大人になるとは、わたしの場合、家を離れて生きてみたいということを出発したのです。

「君たちへ」

枝松 ひとみ

国立大学協会会長 まつもとひろし 松本 紘 (1942～・京都大学総長 工学博士。専門は宇宙プラズマ物理学、宇宙電波科学、宇宙エネルギー工学。) さんの高校生へ向けたメッセージを見つけましたのでご紹介します。

『大学教育は、より深く教養を学ぶことと、専門を身に付けることの2つの使命があります。また、高校までとは全く違う枠組みの科目が多様にあります。そこから、自分が学ぶ内容を主体的に選ぶことができます。高校の勉強は役に立つのか。なぜ勉強しなければならないのか。それは高校で学んだ教養が一生の基盤になるということ。教養とは、人間として蓄えたほうがよい常識、知識のこと。社会の中でうまく生活していくための知恵です。それには、自分自身についての知識、自分が所属しているコミュニティや国、地域（例えばアジア）の知識、世界市民としての知識が含まれます。高校時代に全教科を幅広く勉強することがこうした知識の基盤になります。社会では知識の広さが重要です。社会人になったときに高校までの知識が広くカバーしてくれます。

ですから、勉強が役立つかを考えるべきではない。いま勉強していることの意味は、そのときには分からないのが普通です。「受験に出ない科目は勉強しないでおこう」「理系だから文系は関係ない」というのは間違いです。研究の世界では理系、文系はさほど鮮明に分かれません。また、社会に出て新しい仕事をつくらうとすれば、既存のものとの組み合わせが必要です。そのために重要なのが高校で勉強した広い知識です。学んだことが役立つとわかるのは、社会人になってからなのです。

さらに、青春時代の経験が、その人の人格のほとんどを形成します。感受性が高い高校時代にたくさんの知識を貪欲に吸収し、多くの経験をしてほしい。部活動もいいでしょう。仲間との共同作業や先生とのあつれきも経験の一つです。そういうことを通じて、感受性が育まれ、人の気持ちや行動が分かるようになります。人生は多様ですが、いろんな経験をしたほうが社会に出てから活躍できます。サッカー選手も、技量だけでなく、人の気持ちを考えられる人のほうが活躍する。音楽家も音楽以外のことを知っておいたほうがよい。研究者にも感受性が必要です。その基本は、高校での学びと経験で育まれます。高校生には、打算することなく、目の前のことにしっかり努力を傾けてほしい。高い山だけ見るのではなく、足元を見て一步一步進むことです。好きな書物があればそれを読む。好きなスポーツがあればそれをやる。自分が決めたことを、それも一つに偏らずコツコツやるのが大事です。花は必ず開くと信じてね。』

とありました。惜しみなく努力されてこられた方からのメッセージは、君たちの心へどう浸透したでしょうか。中・高校での知識、経験と、そこで培われたさまざまな力は一生の宝となり、誰からも奪われることもありません。

新入生の皆さんは、入学されようやく2ヶ月が経ちました。そろそろ学校にもなれ、腰も落ち着く頃かと思います。ぜひ、学校行事にとどまらず様々な経験をし、強く広い人間形成に磨きをかけてほしいと願います。また、在校生の皆さんは、慣れることなく常に新しいことに耳を傾け、輝かしい人生を築くことを忘れず、留まることなく1歩1歩前に進んでほしいと強く感じます。



日・曜日	行事計画
2日(金)	中体連 3日(土)まで
3日(土)	平和ミサ 総合英検(高2・3年生 午後より)
7日(水)	職員会議
10日(土)	高3 進研総合学(希望者)
13日(火)	高1 X線 諸検査漏れ者検査 職員検診
14日(水)	委員会活動②
16日(金)	漢検(放課後)
17日(土)	授業参観(半日登校)
21日(水)	高1 X線漏れ者検査 14:00~
23日(金)	慰霊の日 平和学習
26日(月)	振替休日(6/23の振り替え)
28日(水)	小4中3交流会

生徒の頑張り🏆

第39回 沖縄県中学校陸上競技選手権大会 2017年5月20日(土)・21日(日)

種目 ジャベリックスロー 男子中学 優勝 中3 山田一心 記録 55m82(自己新記録)

平成29年度 沖縄県高等学校総合体育大会 2017年5月26日(金)~30日(火)

ゴルフ 2位 高3 大島優久也

砲丸 3位 高2 藤原孝史朗 記録 14.24m(自己新記録) 南九州大会出場決定

円盤 5位 高2 藤原孝史朗 南九州大会出場決定

体操 優勝 高1 中田海斗 九州大会・全国大会出場決定

テニス 高1 北村励・仲宗根祐 健闘むなしくも惜敗。次回に期待!

バスケット部 健闘むなしくも惜敗。次回に期待!

保護者の皆様へ

<一斉配信メール（ハイサイメール）の登録はお済みでしょうか>

5月25日現在、85世帯、90名分が未登録です。緊急時への連絡の際に欠かせません。再度ご確認ください。なお、登録方法がご不明の場合は学級担任までお知らせください。登録マニュアルをお渡しします。皆様のご協力をお願いします。

<送迎に関するお願い>

お車での送迎時の素早い乗り降りについては、先月号の「野ばら」でもご協力を呼びかけさせていただきました。これは**正門付近での停車**は道路を渋滞させるだけでなく、敷地へ出入りする車両ドライバーの視界も遮ることになり、安全確保の上でも大変支障を来しております。正門前での停車は避けていただき、適宜、安全な場所での乗り降りに今後ともご協力いただきますよう再度お願い申し上げます。

<自転車通学をしている保護者の方へ>

生徒の安全のため、本校では自転車通学の生徒に対してヘルメットの着用を呼びかけています。是非、ご家庭におかれましてもご検討いただけますよう、よろしく申し上げます。



6月3日(土)8時30分より、カトリック真栄原教会にて平和ミサに与ります。特に出欠票などはありませんが、参加を希望される保護者の方は、教会駐車場をご利用ください。もし変更の場合には、当日、立て看板か教員の誘導によりご案内いたします。

派遣費補助ありがとうございます！

中体連、中文連、高体連、高文連主催の大会やコンクールで県3位以上の成績を収め、沖縄県の代表として県外に派遣される場合、保護者会と学校より交通費及び宿泊費の一部を補助していただいております。県高校総体が終わり、6月2日(金)からは地区中学総体が開催されますが、それぞれの力を十分発揮し、少しでも多くの代表権を勝ち獲てくれるよう期待します。

保護者の皆様方も応援の程、宜しく申し上げます。